

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 62-221614
(43)Date of publication of application : 29.09.1987

(51)Int.Cl.

A61K 7/02

(21)Application number : 61-066607 (71)Applicant : SEKISUI PLASTICS CO LTD

(22)Date of filing : 24.03.1986

(72)Inventor : YAMAI FUMITO
SHINTO NOBORU
SAKUMA ITARU
KAWANAMI AKIRA
MAEKAWA TOSHIRO

(54) COSMETIC

(57)Abstract:

PURPOSE: A cosmetic that contains porous spherical particles of polyamide powder, thus removing make-up cosmetics and dusts effectively by adsorption and necessitating no addition of inorganic adsorbent, because the particles stabilize the quality of the cosmetic, thus produced economically.

CONSTITUTION: The objective cosmetic contains spherical porous particles of polyamide resin. The polyamide is, e.g., 6-nylon, 12-nylon, 6,6-nylon, 6,10-nylon, and has 2W20 μ m particle size, 0.25W1.5cc/g total void volume. The amount of the particles added is 0.1W80, preferably 1W30wt% based on the total cosmetic weight.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑯ 日本国特許庁 (JP)

⑰ 特許出願公開

⑱ 公開特許公報 (A)

昭62-221614

⑲ Int.CI. 1

A 61 K 7/02

識別記号

厅内整理番号

7306-4C

⑳ 公開 昭和62年(1987)9月29日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

㉑ 発明の名称 化粧料

㉒ 特願 昭61-66607

㉓ 出願 昭61(1986)3月24日

㉔ 発明者 山井二三人 草津市下笠町723-2
㉕ 発明者 新堂昇 滋賀県甲賀郡水口町大字泉1259
㉖ 発明者 佐久間到 滋賀県甲賀郡水口町大字泉1259
㉗ 発明者 河南彰 生駒市真弓3丁目3番11号
㉘ 発明者 前川敏郎 西宮市松並町15-7
㉙ 出願人 積水化成品工業株式会社 奈良市南京終町1丁目25番地
㉚ 代理人 弁理士 真田璋子 外1名

明細書

1. 発明の名称 化粧料

2. 特許請求の範囲

1. 球状多孔性のポリアミド樹脂粉末を配合することを特徴とする化粧料。
2. 前記ポリアミド樹脂粉末の粒径が2~20μmであることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の化粧料。
3. 前記ポリアミド樹脂粉末の全細孔容積が0.25~1.5cc/gであることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の化粧料。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明はポリアミド樹脂粉末を配合した化粧料に関する。

【従来技術およびその問題点】

近年、ポリアミド樹脂粉末を化粧料に配合す

ることがさかんに行なわれるようになった。

これは、ポリアミド樹脂粉末が人体に無害であること、使用中に肌への違和感がないこと、分散性がよいこと、耐薬品性および耐熱性に優れていること等に基づくものである。

このようなポリアミド樹脂粉末をクレンジング用化粧料またはマッサージ用化粧料に用いた場合には、クレンジング効果およびマッサージ効果の大きい化粧料が得られることが知られている（例えば特開昭58-192814号）。

また、このようなポリアミド樹脂粉末をファンデーションまたはメーキャップ用化粧料に用いた場合には、光の屈折率がポリアミド樹脂と汗とでは似ているため、顔全体が均一に光り輝き肌に艶が与えられることが知られている。

しかしながら、従来これらの化粧料に配合されているポリアミド樹脂粉末の各粒子は、貝殻に近い形状をしており、その表面はほとんど凹凸のない滑らかなものである。よって、各粒子自体はほとんど吸着能力を有さず、粉末全体

としてもその吸水能力および吸油能力は著しく低い。

よって、このような真珠状のポリアミド樹脂粉末を配合したクレンジング用化粧料またはマッサージ用化粧料を用いた場合には、皮膚から吸着除去し得る老廃物にもおのずから取りがあり、また、ファンデーションやメーキャップ用化粧料の場合には、皮膚分泌物を吸収しにくいため化粧くずれが起こり易い。さらに、化粧料中の香料、防腐剤等の分離を抑えきれず、品質の安定性にも難がある。

また、一般に、ペースト状化粧料または半固体状化粧料の製造工程において、化粧料の各成分を油で混練する際、油分を多く含む方が練り易い。しかし、この油分がそのままの状態で製品化粧品に残ると、化粧した頬が脂ぎって見えるとともに、化粧した本人もべとつき感を覚え不快である。化粧料の基剤として前述の真珠状のポリアミド樹脂粉末を用いた場合には、粉末自体にほとんど吸油性がないので、余剰の油分

皮膚に付着しているメーキャップ料、じんあい、老廃物等がポリアミド樹脂粉末に効果的に吸着され、皮膚から除去される。また、ファンデーションやメーキャップ用化粧料の場合には、このポリアミド樹脂粉末が汗等の皮膚分泌物を吸収する。さらに、ペースト状化粧料または半固体状化粧料を混練製造する際の余剰の油分を粉末自体が吸着するため、別途に無機系の吸着剤や無機繊維等を混入しなくとも、製品化粧料はべとつかず、さらっとした使用感を与える。

本発明に用いるポリアミド樹脂粉末の素材となるポリアミド樹脂は、どのようなものでもよいが、例えば、6-ナイロン、12-ナイロン、6, 6-ナイロン、6, 10-ナイロン等があげられる。

また、ポリアミド樹脂粉末の粒径は2~20μmであることが好ましい。2μm以下ではマッサージ効果、クレンジング効果が少ない。また、ファンデーションやメーキャップ用化粧料に配合した場合は、小塊の中に入り込んで除去

を吸着させるためには別途無機系の吸着剤や無機繊維等を混入する必要がある。これらの無機系吸着剤や無機繊維は、肌触りのよい形状で、しかも、肌荒れを起こさないpHのものを選択しなければならず、製造原価への跳躍や製造工程での手間等無視できないものがある。

本発明者等は、前述の真珠状ポリアミド樹脂粉末を配合した化粧料の欠点を解決するために脱脂研究の結果、配合されるポリアミド樹脂粉末の各粒子自体が多孔性であれば上記欠点が解消されることを見出し、本発明を完成するに至った。

[問題点を解決するための手段および作用]

本発明は、球状多孔性のポリアミド樹脂粉末を配合してなることを特徴とする化粧料を提供するものである。

すなわち、多孔性のポリアミド樹脂粉末は優れた吸着能力を有するため、これを配合したクレンジング用化粧料またはマッサージ用化粧料でクレンジングまたはマッサージを行なうと、

しにくくなる。逆に、20μm以上では肌触りが悪くなる。

ポリアミド樹脂粉末の多孔性の度合としては、全細孔容積が0.25~1.5cc/gであることが好ましい。この全細孔容積とは、1g当たりのポリアミド樹脂粉末について、粉末粒子の全表面に存在する細孔の全容積を表わすものであり、粉末の有する多孔性の度合を示す基準となり得る。よって、この全細孔容積が大きいと、粉末粒子の表面に他の物質を吸着し得る空間が大きく、優れた吸着能力を有する。

しかしながら、この全細孔容積が大きくなりすぎると機械的強度の乏しいものとなり、吸引中に粉碎されてしまうことがある。また、粉末粒子が凝集してその粒子形状を保持しにくくなり、混練を行ないにくく均一分散性を損う場合もある。

よって、機械的強度等を損うことなく優れた吸着能力を発揮させるためには、全細孔容積が上述の0.25~1.5cc/gであるポリアミ

ド樹脂粉末を配合することが好ましい。

なお、本明細書における全細孔容積の値は、水銀圧入方式により株式会社島津製作所製ボアサイザ9310によって測定される値である。

本発明において、化粧料におけるポリアミド樹脂粉末の配合量は、化粧料の種類、使用目的、ポリアミド樹脂粉末の粒径またはポリアミド樹脂粉末の全細孔容積によって異なるが、化粧料全重量当り、0.1～80重量%、好ましくは1～30重量%の範囲がよい。0.1重量%未満ではポリアミド樹脂粉末の機能が発揮されず、また、80重量%を越えることはほとんど必要性がないからである。

[実施例]

次に、実施例によって本発明を詳細に説明する。配合量は重量%である。

(以下余白)

したのち、AをBに添加する。乳化機を用いて乳化したのち、これにCを分散させる。次に、熱交換器により30℃まで冷却し、充填する。

(以下余白)

実施例1 クレンジングクリーム

A	セタノール	2.0
	ビースワックス	2.0
	ステアリン酸	3.0
	ワセリン	8.0
	スクワラン	37.0
	イソプロピルミリストート	10.0
	POEソルビタンラウリン酸	
	エステル	2.5
	グリセリルモノステアレート	2.5
	エチルバラベン	0.3
	香 料	0.2
B	グリセリン	2.0
	アロビレンクリコール	5.0
	精製水	22.4
	水酸化カリウム	0.1
C	ポリアミド樹脂粉末 (粒径10μm、全細孔容 積0.64cc/g)	3.0

AおよびBをそれぞれ70℃に加熱して溶解

実施例2 マッサージ乳液

A	蜜ロウ	4.0
	ラノリン	2.0
	スクワラン	15.0
	ソルビタンモノオレート	1.5
	POEソルビタン	
	モノステアレート	2.5
	抗酸化剤、防腐剤	0.2
B	アロビレンクリコール	4.5
	増粘剤	0.1
	精製水	68.0
C	香 料	0.2
D	ポリアミド樹脂粉末 (粒径10μm、全細孔容 積0.28cc/g)	2.0

AおよびBをそれぞれ70℃に加熱して溶解したのち、DをAに添加する。乳化機を用いて乳化したのち、50℃まで冷却する。次に、CおよびDを添加して均一に分散させ、30℃まで冷却して充填する。

実施例3 ファンデーション(クリーム)

A	ステアリン酸	4.0
	ステアリルアルコール	9.0
	スクワラン	4.0
	2-オクチルドデシル	
	アルコールエーテル	6.0
	卵黄レシチン	3.0
	着色顔料	2.0
	防腐剤	0.2
B	プロピレングリコール	5.0
	精製水	53.6
C	香 料	0.2
D	ポリアミド樹脂粉末 (粒径9μm、全細孔容 積0.59cc/g)	13.0

Aを75℃に加熱して溶解し、これにDを徐々に添加したのち、予め混合しておいたBを徐々に添加して混合する。乳化機を用いて乳化したのち、30℃まで冷却して、Cを添加して充填する。

グまたはマッサージを行なうと、従来のポリアミド樹脂粉末を配合したクレンジング用化粧料等では除去されにくかった小皺の中のメーキャップ料、じんあい、老廃物等が効果的に吸着除去される。また、本発明に係るファンデーションやメーキャップ用化粧料を用いると、皮膚からの分泌物が吸収されるため、化粧くずれしにくい。さらに、化粧料中の香料、防腐剤等はポリアミド樹脂粉末に吸収固定されるため、化粧料の品質は安定である。

また、本発明に係るペースト状化粧料または半固体状化粧料においては、混練工程における余剰の油分がポリアミド樹脂粉末自体に吸着されているため、べつつきがなく、使用感もさらっとしている。よって、余分に無機系吸着剤や無機繊維等を混入する必要がなく、製造原価の低減も保証される。

なお、比較例として、更球状で、その表面にほとんど凹凸がない滑らかなポリアミド樹脂粉末(粒径10μm、全細孔容積0.14cc/g)を用いて、実施例1、2および3と、それぞれ同組成、同製法のクレンジングクリーム、マッサージ乳液およびファンデーションを製造した。

上記実施例1、2および3を各比較例とそれぞれ使い比べると、クレンジングクリームおよびマッサージ乳液に関しては、比較例より優れたクレンジング効果とマッサージ効果を示し、ファンデーションに関しては、比較例よりもさっぱりとした使用感であった。また、本発明の実施例は、いずれも肌への違和感のないものであった。

[発明の効果]

上述のように、本発明の化粧料は、優れた吸着能力を有する球状多孔性のポリアミド樹脂粉末を配合してなるものである。

よって、本発明に係るクレンジング用化粧料またはマッサージ用化粧料を用いてクレンジン

